

第6期 平成27年度事業報告書
(平成27年 9月から平成28年10月まで)

特定非営利活動法人 亙理いちごっこ

I. 事業概要

平成27年度は①コミュニティ・レストラン事業、②子どもサポート事業、③製造の3事業を柱に活動を展開してきました。

震災から5年半の月日が経ち、地域の方々の暮らしも仮設住宅から災害公営住宅への転居など大きな変化がありました。今年度は新たな試みとして、地域の方々の暮らしを「食」を通して支えたいという思いから、復興庁「心の復興事業」として移動型の食事サロンを展開しました。平成28年6月より上浜災害公営住宅（北城東区、南城東区）、大谷地災害公営住宅、浜吉田北区、逢隈地区で夕食サロン「おらほの食卓」を月1回のペースで開催してまいりました。参加者の方からは「一人暮らしで、食事を作るのが面倒になりがちなので、バランスの良い食事ができて嬉しい。」「仮設から公営住宅に移動して、近所づきあいが減ってしまったので、こうやって集うことができて嬉しい。」という声をいただきました。しかし、その一方、「食事会に出られるのは気持ちが前向きな人。」「ごはんは自分で用意できるが、買い物が不便になってしまったので、おかずやお総菜を販売してくれると助かる。」という声もいただきました。

子どもサポート事業では今年度は専門のスタッフを配置することができ、東北大学サークルいちごっこの学生達からのサポートもあり、順調に活動を展開することができました。5年間の継続活動の中で、小学生、中学生とも家庭環境や基礎学力に課題を抱える子どもや保護者の間に口コミで寺子屋事業のことが伝わり、小学生14名、中学生21名が通い、スペースの問題から新規の申込をお断りしている状況です。次年度はどのように受け入れ人数を増やしていくか、スタッフの専門知識の研修などが課題です。

製造業では「亙理のいちご」を1年通して全国に発信したいという思いから、アイスの開発・製造に取り組みました。お陰様で「くりーむ杜の散歩道（バニラ・いちご）」を4月から発売し、多くのお客様のもとにお届けすることができました。現在はチョコいちご味のアイスの開発をしており、11月から販売できる見通しです。製造に関しては継続していくことが可能かどうかを次年度の上半期に検討していきます。

詳細は次ページ以降に事業ごとにまとめております。3事業以外には「手作りサークル」や「ヨガサークル」を行う中、地域住民が自主性をもって活動していく土壌を作りつつあります。たくさんのご支援をいただきながらその支援をすることができました。引き続きサークル立ち上げに向けてサポートしていかなければという段階にあります。

次年度も3つの事業を継続展開していきます。また、買い物困難地域等へのキッチンカーでのお弁当やお総菜の移動販売を検討しております。今年度も町内・町外の多くのボラ

ンティアの方々に支えていただきましたことに深く感謝を申し上げ、今後も地域の方々に必要とされるサービスを提供できるよう努めてまいりたいと思います。

Ⅱ. コミュニティレストラン事業

立ち上げ当初より食を通して集い、人と人とのつながりをたいせつにたくさんの応援をいただきながらこの5年間の間に、被災された方を中心に寄り添い合う場、語り合う場をつくることが出来てきた。地域の中での関係性を作るだけではなく、地域外の方たちとの交流も大きな柱となっている。【地域コミュニティは大きな家族】を目指す当法人にとってこの事業は根幹事業となっている。



主立った活動を次に挙げる。

1. レストラン事業

- ①温かなバランスの取れた安心安全な食を摂ることは、人の健康な心身を形成していくにあたって欠かせないものである。管理栄養士による低カロリー・低塩分メニューを日替わりで、スタッフが心を込めて一つずつ手作りで毎日提供した。薄味だが出汁が聞いておいしい、家庭的なやさしい味と評判をいただくようになってきている。当施設での食事に加え、事業所、高齢者や産前産後のお母さんなどへの定期的なお弁当提供を行っている。復興住宅やこども会、スポーツ少年団などの集まりにも利用していただくようになってきた。



- ②高校生などの実習受け入れも3年目となった。今年度は11月に山元支援学校高校1年生1名、6月には仙台スイーツカフェ専門学校2年生1名、7～8月には亙理高校2年生4名インターンシップ体験を行った。レストラン業務、製造作業所でのお菓子作りにとどまらず、

復興庁補助事業である【おらほの食卓】において、復興住宅集会所にて住民の方々のために食事の準備をし交流するというプログラムを行った。民間企業では体験できないNPOならではの活動に参加してもらった。参加した学生たちからは、様々な仕事にチャレンジできた、一般事業所ではなかなか出来ない貴重な体験をすることが出来た、などの声が聴かれた。



製造所での実習

2. サロン

- ①手づくりサロン・・・カルトナージュづくり、フラワーアレンジ教室など

当施設を利用し、住民が講師となって手作り教室を開催した。こどもも大人も挑戦できるように組み立てを行ってくださり、平日や土曜休みに開催するだけではなく、夏休み等の長期休みを利用して物を作ることそして人とのコミュニケー



大人もこどももカルトナージュづくり

ションをとることを学びとすることが出来た。



編み物サロン

復興住宅集会所などで行った手作りサロンには、宇都宮カトリック女性部会など地域外のボランティア協力をいただき行った。当法人だけでは行うことが出来ない専門的なサロンを今後も協力していただけるお話を多くの方からいただいている。

②お茶のみヨガサロン

菅野葉子氏を講師にお招きし、月に1度心と身体を癒すヨガを行ってきた。

町外岩沼市等に移り住む人たちを対象として会場を岩沼市中央公民館で行ったほか、亙理野地地区野地集落センター、山元町復興団地浅生原集会所にて定期的に開催した。みなし仮設からの移転が進む中、岩沼会場は参加者も減る傾向があるため、3月で取りやめることとした。

野地地区、浅生原地区に関しては徐々に住民主体とした活動になりつつある。ヨガで身体をリフレッシュさせた後は、みんなでお茶を飲みながらの団らん。今までの思い、これからの不安などを語り合う場ともなり、心のリフレッシュともなっている。

③おらほの食卓



夕食サロン【おらほの食卓】上浜街道復興住宅集会所

2016年6月より復興庁【心の復興】補助事業を受けて始動。

復興住宅や被災者が移り住む地域の公会堂にて夕食サロンを開催。食事を通して津波による被災住民の語り合う場を創るだけでなく、非被災住民との交流をも図る。震災後一人で食事をする世帯が増えている。月に1度でもおしゃべりしながら誰かと食事をとることが出来てうれしいという声をいただいている。こどもからお年寄りまで老若男女が集まり、当法人が目指す【地域コミュニティは大きな家族】を具現化さ

せている。この一環として、当法人施設においても【いちごっこおらほ食卓】を試行的に開催。＜おとなもこどもも食堂＞の運営を模索している。

④その他サロン活動

＜TREリラックス講座＞

別名“緊張・トラウマ開放エクササイズ” 宍戸和子氏を講師にお招きし、少人数による心と身体のエクササイズを行った。簡単な7つの体操をすることにより、からだの深層部に蓄積されたストレスやトラウマによる緊張をゆるめるための振動を起こし、長い間溜め込んでいたストレスを開放させることができた。

開催場所：上浜街道集会所、亙理悠里館、亙理いちごっこ



＜サロンコンサート＞

・2015 年 11 月 1 日 ＜ベートーベンカルテット コンサート＞開催。本場の弦楽四重奏を 2 か所の復興住宅集会所にて鑑賞した。衣食住足りて人は生きられるものではないという設立当初からの思いをなお続けることが出来るのもたくさんのご支援をいただいでのことである。集会所には入りきれないほどの方が集まった。



・2016 年 3 月 20 日 ＜和やかコンサート in わたり＞開催。



2011 年より応援くださっている神戸の団体が企画してくださり、上浜街道集会所にてソプラノソロとピアノのコンサートを行った。また南相馬市野馬追連のみなさんによる阿波踊りなどが行われ、同じ被災地域に住む者同士の交流の場ともなった。コンサート終了後は一緒にお食事とお茶をともにし、食による交流を図ることで心の内を語り合うことが出来た。



野馬追連による阿波踊り

<上浜手作りサークル>

毎月2回、上浜街道住宅集会所にて手作りなんでもサークルを開催している。編み物や、楽しくお茶を飲みながらおしゃべりなど、なんでもありのサークル活動を行っている。6月には熊本・大分で被災に合われた方へ、平安への祈りを込めて全員でいちごっこタワシを編み、メッセージとともに送った。そのお礼にと辛い中にいながら励まされましと反対に励ましのお便りをいただいている。このサークル活動をゆっくりではあるが自主運営していくことが出来るようなサポートを今後も進めていく。また西木倉集会所における手作りなんでもサロンは2か月に1度程度で開催。今後住民のニーズをより引き出した活動としていくよう検討を要する。



熊本益城町へみんなの思いを送りました

⑤町内会交流スペースとしての役割



昨年度より南町北区地域指定避難所となり活用されている。地域の交流活動である「芋煮会」「防災訓練」「夏まつり」などが行われ、地域の方たちの集まる場所として活用いただいている。

⑥中高大学生及び社会人のための被災地研修拠点

東日本大震災の関心が薄れてきている中、学校、団体単位での被災地研修の取り組みのつなぎ手として活動を行ってきた。また、何かしてあげなければという一方向的支援の在り方を考えることに終わるのではなく、被災地に関わることで自分たちの地域でこれからどのようなことをしていくことが出来るかを学ぶ貴重な体験にしたいと伝えてきた。来年度も引き続き継続活動として取り組まれる学校も多い。

「こちらのニーズを鑑み、現地に必要な活動を自ら企画運営していくようなプロジェクトを組み立ててほしい。外から訪れる者にとってその活動が、自らの生きる力となっていく。その活動のためのサポートを当法人は引き続き行っていく。」と彼らに伝え続け被災地研修の受け入れ、企画運営を行ってきた。今後も続けていく。



高校生企画によるお茶サロン

⑦地域活性化事業・・・国際交流事業・・・

タイ チェンマイから奥に入ったパピエの方たちが亘理のようないちごを作りたいと交流を持つようになった。国際交流協会より渡航費を助成していただき、2015年11月にはタイから5名の農業関係者(学識者1名含む)が亘理を訪れ、いちご栽培や亘理における農業の取り組みを学んでいった。その後もネット通信によりいちご栽培のノウハウが伝えられている。



《 参考 》

2015年(平成27年)11月13日(金曜日)

タイの学生ら、亘理の被災農家視察

イチゴへの情熱 体感

東日本大震災で大きな被害が出た福島亘理町に、タイ北部のコム農家や学生らから日本のイチゴ栽培を視察に訪れている。被災から立ち上がったイチゴ農家を回り、栽培の様子を見、最新の技術を知り、津波で失ったものを流されても諦めず、生産再開に向けて奮闘した農家のイチゴへの熱い思いも、本國に持ち帰ろうとしている。

数回ハウスで小野さん(右)が手に取りイチゴを食す。伊の島の農家の人たち

メンバーの多くはタイ北部の古都チェンマイの西にあるババエ村の出身。人口100ほどの農村で、新たな収入源としてイチゴの生産に取り組み、そのことを知った学生さん(左)は「亘理町を訪問し被災農家へ人が昨年8月、世界からの復興支援への感謝を表すために来て、自費で村を訪れて交流が始まった。比較的多い気候が合う。栽培に適した環境だ」という。

5人は、おさんちの地元の被災者支援のNPO法人「亘理いちご」の招きで来日。費用は国際交流基金(東京)の助成で開った。今月7～15日の日程で、おさんち町内の被災農家5戸や宮城県亘理農政改良普及センターなどを視察する。

11日は、小野勇徳さん(45)＝同センター、30歳の栽培ハウスに入り、腰の高さの棚に苗を植える高設ベンチで、生果中の「もっしゅ」の出来栄を確認した。小野さんは「栽培に大

諦めぬ心 母国への土産

事なのは水はけの良い土作りだとアドバースした。

現地では大規模な施設園芸は珍しく、メンバーは設備を見て「すごい」と舌を上げ、盛んに写真やメモを取った。農家のラッシャー・ファンバイブルツさん(52)は「さすがは無肥料で、いざれば最新の栽培技術を取り入れて高品質のイチゴを作りたい」と目を輝かせた。

おさんちと小野さんは津波で栽培ハウスが壊されたが、国の復興事業費を活用して被災後、間もなく営農を再開した。

おさんちは「手間をかけて大きくて良いものを生産できれば、都市部の農産物に価値が売れて、地域を元気にできる。私たちは震災で手も失って再び立ち上がるのができた。タイのみんなもやれるはず」とエールを送る。

「1日のリサーチを終めるウォーラック・チャンシーブツさん(37)は「おさんちたちが村にチャナスをくれた」と感謝する。

Ⅲ. 亙理子どもサポート事業

1. 全体概要

地域に暮らす子どもたちの基礎学力の定着を目指し、週3回学習支援を通年110回以上行う。また、学習だけでなくスタッフ、ボランティアスタッフ、子どもたち同士の学校や学年を超えた日々のふれ合いを通して、子どもたち一人ひとりの心の拠りどころとなるよう活動を行っている。また子どもたちだけでなく、ボランティアスタッフの学生たちの学びの場ともなっている。

2015年9月から2016年3月の活動では、通常寺子屋の他にハロウィンパーティー(12/28)、クリスマスパーティー(12/21)、冬休み寺子屋(2015/12/22・25、2016/1/4~6)・春休み寺子屋(2016/3/28~4/1)を企画開催。また年度の締めくくりとして「みんなみんなありがとうの会」(2016/3/12)を開催。寺子屋第1期卒業生4名も訪れ、寺子屋の歩んできた時を感じる非常に感慨深い時間となった。



2016年4月20日~27日の間、全4回のお試し期間を設け寺子屋での学習を体験してもらった。小学生14名、中学生21名の計35名が参加した。(新規14名)

2016年5月2日から新体制として週3回、月水金の通常寺子屋を開始。(5/2~7/20 1学期通常寺子屋全25回開催) 6月25日にはウェルカムパーティーを開催。小中学生及び大学生間との顔合わせ及び交流を図る機会を設けた。活動内容は、大学生企画によるレクリエーションゲーム、中学生がメインになってホットケーキを製作、各自デコレート等を行う。交流会後にはスタッフとサークルいちごっこの東北大学学生10余名と今年度の活動に関するミーティングを行った。

7月20日を1学期通常寺子屋最終日とし、その後7月後半の4回、8月前半の2回、全6回の寺子屋開放日を設け小中学生延べ31名が参加した。開放時間は全日13:00~16:00、主な学習内容は夏休み学校課題を各自行った。また同時期に中学3年生を対象に面談を行った。

8月18・19・20日の3日間で国立花山青少年自然の家にて夏季勉強合宿を開催。(対象中学生) 中学生11名(内訳1年:5名、2年:3名、3年:3名)が参加、夏休み学校課題を主に学習を行った。8月22日より2学期通常寺子屋を開始。

他に、ポニーキャンプ(2015/9/20~22・2016/7/23~25)、米沢&亙理子ども交流(5/15・8/8~9)等を行い地域内外交流を図ることが出来た。

2. 通常寺子屋学習内容（お試し寺子屋含む）

小学生の部：毎週 月・水・金曜日 18:00～18:50

寺子屋では基礎学力の定着を目標として学習を行っている。
学習方法は、各学年別に購入した算数ワークを解くことをメインとし、各自学校で出された課題や子どもの進度や興味に応じたプリント・問題を提示し、学生等に分からなかった箇所を聞きながら学習を進める。今年度から新たな取り組みとして週に1度、水曜日に“遊びながらの学習”スタイルを取り入れ、後半の時間帯で百人一首や日本地図パズルなどで学習を行っている。



勉強後の交流学习タイム

中学生の部：毎週 月・水・金曜日 19:00～19:50 20:00～20:50

4月から月曜日は英語、水曜日は数学、金曜日は理社をメインに置き、始めの1時間を使って主要科目の定着を目指し学習を進めている。後半の時間帯では、各自ワークや学校の課題を各々進めている。今年度は3年生の参加が多く、受験に通用する基礎力向上がより求められる。

3. 課題

小中学生ともに個別の対応が求められるケースが多く、子どもの進度・興味に応じた学習内容の提示が必要である。寺子屋の中で子どもたちが少しでも「わかった!」「できる!」という成功体験を積み重ねられるようフォローアップ体制をすすめてゆく必要がある。また、他の塾とは違った小中学生と学生間の触れ合いを大切にしてゆけるよう工夫してゆきたい。

4. 登録者数（2016年10月17日現在）

（ア）合計受講者数：35名（休会・退会除く）

	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小学生	14名	1名	2名	1名	3名	6名	1名
中学生	21名	11名	5名	5名			

(イ) 月会費

合計月会費：¥194,000(2016年9月分,休会・退会除く)

通常	片親世帯	被災世帯	多兄弟	特例	休会	退会
¥6,000	¥5,000	¥5,000	¥3,000	¥2,000		
16世帯 (21名)	7世帯 (7名)	4世帯 (5名)	1世帯 (2名)	1世帯 (1名)	2世帯 (2名)	2世帯 (2名)
¥126,000	¥35,000	¥25,000	¥6,000	¥2,000		

5. 東北大学サークルいちごっこ

寺子屋いちごっこにおける子どもサポートを行っていこうと東北大学学内サークル「サークルいちごっこ」2012年4月に結成された。現在4年半経過する中、51名の学生が登録してくれている。毎回4名の学生が週3回亙理に訪れている。子どもたちの学習をサポートすることに留まらず、子どもたちのよきお姉さんお兄さんとして見守りを行ってくれている。



2016年3月 みんなみんなありがとうの会

製造

1. 全体概要

亙理を発信するツールとして、カップアイスの商品開発を行う。

12月より開発を計画、コンセプト設定、高級感のあるいちごのアイスと、バニラアイスを

開発した。更にその月、ネットショップ『みんなの亙理』のお声がけを頂き、出店を決める。
また、3月にガーネットみやぎ様からも、カタログ販売「みやぎ復興販売」のお話を頂き、決定する。

開発のため、試食を何度も繰り返し3月にほぼ味を決定、その間、商品名と、ラベルデザインを行った。ラベルデザインは、ネットショップ担当「パワフルジャパン様」のご協力で、デザイナーをご紹介いただき、高級感のあるデザインで仕上がり、4月、待望の商品として販売することが出来た。商品名は、「ふわふわでとろける」感じを出したいことと、いちごっこキッチンの名称を取り入れ、「くりーむ杜の散歩道」に決定する。

ネット販売・カタログ販売に関しては、開始当初は、順調であったが、時間の経過とともに注文が減っていった。

5月、情報誌「なうてい」に掲載決定。カップアイスではなく、いちごっこキッチン散歩道の商品であるスイーツ特集として掲載いただく。

6月、いちごっこニュースレターをDM発送することとなり、チラシを同封、全国の支援者や、これまで携わっていただいた方々へ、商品のご報告が出来た。また、御中元の時期と重なっていた為、8月まで順調に売り上げをのばした。

また、6月より、業務用として、1,000ml アイスの営業を行う。亙理近郊のカフェやレストランを対象とした。お客様には、既にメーカーが入り込んでおり、価格的に3分の1の値段で提供されており、亙理のいちごを使ったアイスは魅力的だが、現在の値段では、難しく、3分の1とは言わないが、価格を下げる努力をしてほしいとの、ご指摘を受ける。